

# カヌー部・水泳部、近畿大会出場 (高校総体結果)

## 【カヌー部】

■5月23～24日 美山漕艇場  
▽K-4 500m 決勝  
3位 ノータイム  
(近畿大会出場)

里中啓志 西山将広  
久保光希 道阪 凌  
▽K-2 500m 決勝  
8位 3分03秒32 (近畿大会出場)  
久保光希 道阪 凌  
▽K-2 500m 決勝  
9位 3分04秒51  
里中啓志 西山将広

※1年生男子5人で、初めての県下の大会に参加しました。結果は、男子K-4 (カヤック・フォア) 500m決勝で里中・西山・久保・道阪組が3位に入賞し、6月10日～12日に滋賀県立琵琶湖漕艇場で行われる近畿高校総体カヌー競技への出場を決めました。  
また、男子K-2 (カヤック・ペア) 500m決勝で久保・道阪組が8位、里中・西山組が9位に入り、8位の久保・道阪組がこれまた近畿大会出場を決めました。男子K-1 (カヤック・シングル) においても、5人全員が1年生ながら予選を突破し準決勝進出を果たしました。

## 【水泳部】

6月17、18日、新翔高校プールにて行われた。本校選手は6名は個人レース、リレーともに全種目大幅な自己ベストを更新した。その中でも下記の2名の選手が、7月に行われる近畿高校総体の出場資格を得ることができた。日ごろお世話になっている保護者や先生方に感謝の気持ちを忘れず、またこの結果に満足することなく、日々自分を磨き練習に励んでいきたいと考えている。  
▽男子100%平泳ぎ  
小出 亮 第4位 1分12秒81  
▽男子200%平泳ぎ  
小出 亮 第5位 2分41秒08  
▽女子200%個人メドレー  
濱地杏奈 第4位 3分12秒46

## 【サッカー部】

■5月28日  
1回戦vs和歌山北 1-5 敗退

## 【ソフトテニス部】

▽男子団体戦  
1回戦 新翔2-0 南部 勝利  
2回戦 " 0-2 笠田 敗退

## ▽個人戦

堀本・辻組 3回戦敗退  
室野・池本組 3回戦敗退  
木野口・山本組 3回戦敗退  
塩崎・田村組 2回戦敗退  
木築・玉那覇組 2回戦敗退  
久保利・田中組 2回戦敗退  
中田・中村組 2回戦敗退  
敷地・岡昇組 2回戦敗退

## ▽女子団体戦

1回戦 新翔0-2 海南 敗退

## ▽個人戦

岩崎・山本組 2回戦敗退

## 【バドミントン部】

### ▽男子団体

3位 1回戦 新翔3-1 伊都 準決勝  
準決勝 新翔0-3 耐久

### ▽男子ダブルス

ベスト8  
汐崎慶一郎・仲 優一組

### ベスト16

岡本恭平・野口優真組  
阪本裕輔・米川令英組

### ▽男子シングルス

ベスト16 汐崎慶一郎

### ▽女子団体

1回戦敗退 新翔0-3 伊都

※今年は男女合わせて14人が出場しました。男女とも、練習の成果を発揮し最後まで粘り強く頑張りました。

## 【バレーボール部】

### ■予選リーグ 6月4日

### ▽第二試合

新翔12-25笠田

### 15-25

### ▽第五試合

新翔25-19桐蔭

### 20-25

### 25-21

### ■決勝トーナメント 6月5日

### ▽一回戦

新翔25-10泉立和歌山

### 25-23

### ▽二回戦

新翔13-25信愛

## 【ハンドボール部】

▽本戦1回戦  
新翔56-17市立和歌山 勝利  
▽2回戦  
新翔24-47紀北農芸 敗退

## ▽敗者戦1回戦

新翔32-15和歌山商業 勝利

## ▽2回戦

新翔20-21海南 敗退

※3年生は、選手が7人というぎりぎりの人数で練習に励んできました。その成果を十分に発揮し、本戦・敗者戦とも2回戦まで進出することができました。選手それぞれが自分のよさを発揮し、3年生にとっては悔いのない戦いができたと思います。

## 【ラグビー部】

### ▽1回戦

新翔21-8 那賀高校

(前半7-0、後半14-8)

### ▽2回戦

新翔対5-55和歌山工業

(前半0-31、後半5-24)

※4月より同好会から部に昇格しての初戦突破、2回戦の和歌山工業高校は、新人大会優勝のチームで1トライは、価値のあるトライであった。

## 【弓道部】

本年度は、男子・個人、女子・団体・個人に参加。結果は、本来の力が発揮できず予選敗退であった。

## 【空手道部】

女子団体組手の部は初戦で新宮高校と対戦し2対3で敗れた。女子個人組手の部では、3年生の亀井桃花がベスト8に進出するが、入賞はできなかった。

## 【剣道部】

男女各1名ずつ個人戦に出場しましたが、1回戦で敗退しました。今回の結果をいかに、来年度にむけて頑張りたいと思います。

## 【柔道部】

個人戦81kg級に、3年生の山口悠平が出場。一回戦は、耐久高校の選手と戦い、開始一分で大外刈りを決め一本

勝ちをおさめた。二回戦は、那賀高校の選手と戦ったが小内刈りで一本負けをして、3年間、柔道の練習を続けてきて、ひとつでも多く勝てるように頑張ってきた。その成果が大会では十分に発揮され、完全燃焼で高校生活最後の大会が終わった。

## 【女子バスケットボール部】

### ▽1回戦

新翔41-71貴志川  
序盤から相手にリードを許す展開であったが、最後まであきらめず我慢を続けて、14点差まで迫ったが、試合の流れをつかみきれず敗退。3年生を中心に1勝を目標にがんばってきたが残念です。新チームで次にむけてがんばります。

## 【卓球部】

### ▽女子団体

1回戦 新翔-那賀  
0-3 初戦敗退  
▽個人戦 女子ダブルス  
西浦・清水組 2回戦進出  
塩崎・川上組 2回戦進出  
戸部・道阪組 2回戦進出  
▽女子シングルス  
戸部 2回戦進出  
川上 3回戦進出  
※残念ながら、目標としていた女子団体での近畿大会出場は実現しなかった。また心技体を磨き、再度挑戦したい。

## 【男子バスケットボール部】

### ▽一回戦

新翔51-94高野山  
※練習試合との雰囲気の違いから緊張していたが、序盤は積極的に攻めていた。疲れが出てきた後半は自分たちのミスから失点が増え、集中力も落ちた。新チームでの課題が見えたので、新人戦でリベンジしたいと考えています。

## 【陸上競技部】

残念ながら近畿大会への出場権は得られなかった。しかし、自己記録を更新した選手もおり、それぞれが積極的なレースをすることができた。今後は7月に国体選考会、8月に新人大会もある今回の試合で経験したことをこれからの練習に活かしていきたい。



## 高校総体壮行式

5月26日、体育館で高校総体壮行式を行った。七瀬高生校長は「周りの支えがあつてこそ、ここまでやってこれた。特に3年生は最後の試合となる。恐れず冷静に最大限の力を発揮してほしい。試合に勝ち負けはつきものである、勝つても負けても得られるものがある。結果をこれからの前進の糧にしてほしい。」と激励した。

3年3組岡部大誠君(硬式野球部主将)は「今回の大会、3年生は最後の試合であり、1・2年生は3年生と一緒に戦うのが最後になります。悔いの残らないようがんばってきてください。」と再援を送った。

今日は15種目のクラブが出場する。(男子126、女子78) 幸之輔君(ラグビー部主将)が「日頃の厳しい練習に耐え、勝利」という一つの目標に向かって努力してきました。気力、体力を振り絞ってがんばりますので応援よろしくお願いします。」と答えた。

# 「勝利という目標に向かって」

# 月刊 新翔タイムズ

第36号  
新翔タイムズ  
編集室  
発行・熊野新聞社

## 「地元で活躍の人」招き講演



講演する宮本産業株の宮本昌幸さん  
く、将来像を重ねた職業観についての発表をクラスで行った。  
■1年1組  
杉浦仁さんのなぜ農業という職業を選んだかという動機や農業に従事して苦労したところなど、話をお聴きした。三十七歳で母や茄子の栽培を行いやつと軌道に乗せることができるようになったが、母も農家も高齢化が進み廃業する農家も多いという厳しい現実を話された。地産地消を目標

熊野川町森林組合の田中さんに講演していただいた。木の枝や葉などを持ってきてもらい、森林の大切さ、仕事のやりがいなどを楽しく講演を受けることができた。その後のインタビューでも貴重な意見を聞くことができた。  
■1年3組  
「感謝」というテーマで講演していただいた。グループでのゲームを通して、「何事も1人で行動するより皆で協力する方が成果が上がる、だから常に周りに感謝しよう」ということを学んだ。その後のインタビューでも貴重な意見を聞くことができた。

## 「働くことってなんだ？」テーマに



に頑張っている姿には生徒も感銘を受けたようだ。日本の農業の持つ大変さをその言葉より、感じ取ることができた。質問のなかには新鮮な茄子の選び方、ししとうの栽培の仕方などを教えて欲しい等の質問もあり、やや場が和んだような気がした。  
■1年2組  
インタビューでは海外旅行での添乗業務についての質問がたかさんでいた。  
■1年5組  
三和建設株式会社の方々から話を聞かせていただいた。身近な新宮市内の建物がどのように耐震化されているかの説明には、特に興味を持って聞いていた。インタビューでは、仕事の大変さ、やりがい等について質問し、何もない土地に設計図通りに建物ができていく喜びについて、話してもらったことができた。

## クラブ紹介

今までの最高位は平成11年熊本国体少年女子K-1で女子生徒が準決勝まで進出。また、平成19年にカヌー競技がインターハイの正式種目に入るまでは全国大会選手権に毎年出場していましたが、インターハイには、あな競技は、マイナーな競技にしか味わえない醍醐味があります。スタートラインがみんな一緒なので、今までの運動部の経験は全く関係ありません。練習をやったことやただだけ試合の結果に表れます。やった個人だけではなく、2人乗り、4人乗りの種目もあり仲間と力を合わせないと勝てないのも魅力の一つです。

## 「カヌー部」



昨年度、3年生が4名だけの寂しい部員数でした。それでも優秀な成績を残してくれました。今年度、4月以降は廃部の危機に立たされていきました。が、カヌーに興味を持ってくれた1年生男子が6名も入部。さっそく、5月の県総体、6月の国体県予選、近畿総体と3つの大会を経験し、もっと速く漕ぎたい、もっと力をつけたい、皆熱心に練習に取り組んでいます。そして、2年後には、和歌山県を代表する選手に成長し、念願のインターハイ、国体に出場できる選手になることを期待しています。  
「カヌーは、自然を相手にするスポーツです。また、高校からはじめられるスポーツです。」クラブ紹介で説明する台本には必ずこの文面を入れます。マイナーな競技は、マイナーな競技にしか味わえない醍醐味があります。スタートラインがみんな一緒なので、今までの運動部の経験は全く関係ありません。練習をやったことやただだけ試合の結果に表れます。やった個人だけではなく、2人乗り、4人乗りの種目もあり仲間と力を合わせないと勝てないのも魅力の一つです。

## 先生の紹介 ◆ 岡本剛典先生



みなさん、はじめまして。この四月から本校にて勤務させていただきます。だいたい約二ヶ月が経過し、少しずつではありますが、このご時勢の間、訪れる土地

で、新宮市には全く馴染みがありませんでした。とりあえず、「遠い」という印象を持っていただけに、まさかそこに住み、働かせることには想像もしていませんでした。新生活が始まって約二ヶ月が経過し、少しずつではありますが、このご時勢の間、訪れる土地

が、第一、第三のふるさとになっていく。これは、他の仕事ではなかなか経験することのできない、言わば教師の特権です。非常に幸せなことです。人生を豊かにする要素のひとつとして環境は欠かせません。ただ、それは単なる要素に過ぎず、与えられた環境をどう生かすかで、人生は全く異なるものになると考えます。

学校に行き、友達と励み、クラブ活動をし、日が暮れて行く。そんな毎日が当たり前のようで、実はとても幸せなことなのです。その満ち足りた環境の中で、自分がどのような気持ちを持ち、どのように具体的に行動に移すかで、一人ひとりの未来が変わってきます。高校生活がいつまでも続くわけはありません。みなさんはすぐに社会に出て、社会の一員としての役割を担うことになるのです。「そんなこと、社会に出たら通用しません。」と先生に言われたことはありませんか。社会に出てからでは遅いのです。私は、新翔高校での毎日を過ごして、社会で通用する基準や能力を身に付けてもらいたいと思っています。

社会に出て、得意なことだけを生き延びていくのかと言え、もちろんそうではありません。不得手なこと

に立ち向かわなければならぬ場面に、何度も遭遇することでしょう。今の生活に置き換えてみてください。勉強、部活、日々の生活。それにちゃんと立ち向かっていますか。無意識に毎日過ごしていませんか。社会に羽ばたく練習段階として、高校生活は非常に大切なことです。言い訳を考へることに無駄な努力を使わず、私自身も生徒たちと一緒に挑戦し続けたいものです。